

湯浅邦弘教授 略歴



昭和三十二年（一九五七）四月

島根県出雲市生まれ

（学歴）

昭和五十一年（一九七六）三月

島根県立出雲高等学校卒業

昭和五十一年（一九七六）四月

島根大学教育学部入学

昭和五五年（一九八〇）三月

同上卒業（教育学士）

昭和五六年（一九八一）四月

大阪大学大学院文学研究科博士前期課程入学（中国哲学）

昭和五八年（一九八三）三月

同上修了（文学修士）

昭和五八年（一九八三）四月

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程進学（中国哲学）

昭和六〇年（一九八五）三月

同上中途退学

平成九年（一九九七）一二月

博士（文学、大阪大学、一三四七六号）

（職歴）

昭和六〇年（一九八五）四月

大阪大学助手（文学部）

昭和六一年（一九八六）一〇月

北海道教育大学助手（教育学部釧路分校）

昭和六二年（一九八七）一〇月

北海道教育大学講師（教育学部釧路分校）

昭和六三年（一九八八）四月

島根大学講師（教育学部）

平成元年（一九八九）四月

島根大学助教授（教育学部）

平成七年（一九九五）四月

大阪大学助教授（文学部）

平成一一年（一九九九）四月

大阪大学助教授（大学院文学研究科）

平成一二年（二〇〇〇）四月

大阪大学教授（大学院文学研究科）

令和四年（二〇二二）四月

大阪大学教授（大学院人文学研究科）

（受賞）

1. 平成一五年度（二〇〇三）前期、大阪大学共通教育賞受賞。

2. 平成二三年（二〇一一）、第一回（二〇一一年度）大阪大学功績賞（社会・国際貢献部門）受賞。

3. 平成二五年（二〇一三）、二〇一三年度「中文デジタル・パブリッシング・デジタルアーカイブ国際学会」の「優秀学術論文賞」受賞。

4. 平成二五年（二〇一三）、大阪大学総長表彰（二〇一三年度「中文デジタル・パブリッシング・デジタルアーカイブ国際学会」優秀学術論文賞

受賞に対して）。

5. 令和三年（二〇二二）、編著『儒教の名句―『四書句辨』を読み解く―』

上巻・下巻（汲古書院）が一般社団法人中央政策研究所の第三回「学術貢献賞」を受賞。

術貢献賞」を受賞。

湯浅邦弘教授 研究業績

(二〇二二年一〇月末現在。【著書】【論文】【研究史・書評・報告・解説等】に分け、直近から過去に遡って主なものを記載し、便宜上それぞれ通し番号を付ける。口頭発表・講演は省略した。詳細については湯浅邦弘ホームページ <https://www.yuasa-kunihiro.com/>(参照)

【著書】

(一) 単著

1. 『世界は縮まれり―西村天囚『欧米遊覧記』を読む―』(KADOKAWA、全五〇七頁、二〇二二年二月)
2. 『人生に効く『菜根譚』』(KADOKAWA、全一六三頁、二〇二〇年五月)
3. 『懷徳堂研究』(湯浅邦弘著、白雨田訳、四川大学出版社、全一八四頁、二〇二〇年五月)
4. 『荀子』(角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス中国の古典、全二〇三頁、二〇二〇年一月)
5. 『中国の世界遺産を旅する―響き合う歴史と文化―』(中央公論新社・中公新書ラクレ、全二四二頁、二〇一八年五月)
6. 『呻吟語』(角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス中国の古典、全三一九頁、二〇一七年一〇月)
7. 『別冊NHK100分de名著 菜根譚×呻吟語―成功と挫折の処世訓―』(NHK出版、全一八三頁、二〇一七年六月)
8. 『孫子の兵法』(角川ソフィア文庫、全二二八頁、二〇一七年六月)
9. 『貞観政要』(角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス中国の古典、全一九六頁、二〇一七年一月)
10. 『竹簡学―中国古代思想的探究―』(湯浅邦弘著、白雨田訳、中国出版集團東方出版中心、全二八五頁、二〇一七年一月。単著19の中国語版)
11. 『懷徳堂の至宝―大阪の「美」と「学問」をたどる―』(大阪大学総合学術博物館叢書一三、大阪大学出版会、全九二頁、二〇一六年一〇月)
12. 『超入門「中国思想」』(大和書房・だいわ文庫、全三〇二頁、二〇一六年九月)
13. 『このせちがらい世の中で誰よりも自由に生きる―自己啓発の到達点「老子」「莊子」の考え―』(宝島社、全二三三頁、二〇一五年一〇月)
14. 『菜根譚』(NHKテレビ「100分de名著」アンコール放送テキスト、NHK出版、全九六頁、二〇一五年一〇月)
15. 『軍国日本と『孫子』』(筑摩書房・ちくま新書、全二五三頁、二〇一五年六月)
16. 『菜根譚』(NHKテレビ「100分de名著」テキスト、NHK出版、全九六頁、二〇一四年一月)
17. 『菜根譚』(角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス中国の古典、全二三七頁、二〇一四年一〇月)
18. 『入門 老荘思想』(筑摩書房・ちくま新書、全二六一頁、二〇一四年七月)
19. 『竹簡学―中国古代思想の探究―』(大阪大学出版会、全三四八頁、二〇一四年五月)
20. 『孫子』(NHKテレビ「100分de名著」テキスト、NHK出版、全九五頁、二〇一四年三月)
21. 『中國出土文獻研究―上博楚簡與銀雀山漢簡―』(台湾・花木蘭文化出版社・古典文獻研究輯刊第十五編、全一五七頁、二〇一二年九月)

22. 『論語』（中央公論新社・中公新書二二五三、全三〇四頁、二〇一二年三月）
23. 『故事成語の誕生と変容』（角川学芸出版・角川叢書四八、全二〇三頁、二〇一〇年九月）
24. 『中国古典に探す座右の銘』（角川SSC新書〇九九、全一九〇頁、二〇一〇年五月）
25. 『菜根譚』（中央公論新社・中公新書二〇四二、全三二〇頁、二〇一〇年二月）
26. 『孫子の兵法入門』（角川学芸出版・角川選書四六二、全二三〇頁、二〇一〇年二月）
27. 『諸子百家』（中央公論新社・中公新書一九八九、全三一二頁、二〇〇九年三月）
28. 『孫子・三十六計』（角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス中国の古典、全二七一頁、二〇〇八年二月）
29. 『墨の道 印の宇宙―懷徳堂の美と学問―』（大阪大学出版会・阪大リール、全一六八頁、二〇〇八年二月）
30. 『戦いの神―中国古代兵学の展開―』（研文出版、全三三六頁、二〇〇七年一〇月）
31. 『戦國楚簡與秦簡之思想史研究』（台湾・万卷楼、出土文献訳注研析叢書P〇二四、全二七六頁、二〇〇六年六月）
32. 『よみがえる中国の兵法』（大修館書店、全三三七頁、二〇〇三年六月）
33. 『中国古代軍事思想史の研究』（研文出版、全三八四頁、一九九九年一〇月）

(二) 編著

1. 『西村天四旧蔵印』（編集・解説、大阪大学人文学研究科、全五一頁、二〇一二年九月）
2. 『よくわかる中国思想』（編著、ミネルヴァ書房、全二〇〇頁、二〇一二年二月）
3. 『西村天四『論語集釈』』（編集・解説、大阪大学文学研究科、全三三〇頁、二〇一二年一月）
4. 『儒教の名句―『四書句辨』を読み解く―』下巻（編著、汲古書院、全四一九頁、二〇一二年一月）
5. 『儒教の名句―『四書句辨』を読み解く―』上巻（編著、汲古書院、全三三三頁、二〇一二年一月）
6. 『中国思想基本用語集』（編著、ミネルヴァ書房、全三六四頁、二〇一〇年三月）
7. 『教養としての中国古典』（編著、ミネルヴァ書房、全三四二頁、二〇一八年四月）
8. 『清華簡研究』（編著、汲古書院、全四一四頁、二〇一七年九月）
9. 『増補改訂版懷徳堂事典』（編著、大阪大学出版会、全三三七頁、二〇一六年一〇月）
10. 『テーマで読み解く中国の文化』（編著、ミネルヴァ書房、全四二五頁、二〇一六年三月）
11. 『名言で読み解く中国の思想家』（編著、ミネルヴァ書房、全三七六頁、二〇一二年八月）
12. 『概説中国思想史』（編著、ミネルヴァ書房、全四〇六頁、二〇一〇年一〇月）
13. 『江戸時代の親孝行』（編著、大阪大学出版会・阪大リール、全二二

五頁、二〇〇九年二月)

14. 『懷徳堂研究』(編著、汲古書院、全四四八頁、二〇〇七年一月)

15. 『上博楚簡研究』(編著、汲古書院、全四八八頁、二〇〇七年五月)

16. 『懷徳堂の印章』(編著、大阪大学文学研究科、全六四頁、二〇〇七年三月)

17. 『懷徳堂アーカイブ 懷徳堂の歴史を読む』(竹田健二氏との共編著、大阪大学出版会、全六〇頁、二〇〇五年三月)

18. 『懷徳堂文庫の研究二〇〇五』(編著、大阪大学文学研究科共同研究報告書、カラー口絵四頁、本文全一三四頁、二〇〇五年二月)

19. 『諸子百家(再発見)―掘り起こされる古代中国思想―』(浅野裕一氏との共編著、岩波書店、全二五四頁、二〇〇四年八月)

20. 『懷徳堂文庫の研究』(大阪大学文学研究科共同研究報告書、全一九四頁、二〇〇三年二月)

21. 『懷徳堂事典』(編著、大阪大学出版会、全二七二頁、二〇〇一年二月)

(三) 訳書

1. 『竹簡学入門―楚簡冊を中心として―』(湯浅邦弘監訳、草野友子・曹方向訳、東方書店、全二二六頁、二〇一六年一二月。原著は陳偉『楚簡冊概論』)

2. 『中国の夢判断』(湯浅邦弘訳、東方書店、全三五七頁、一九九七年四月。原著は劉文英『夢的迷信与夢的探索』)

(四) 共著

1. 『別冊100分de名著 老子×孫子「水」のよう生きる』(蜂屋邦夫氏と

の共著、NHK出版、全一七四頁、二〇一五年二月)

2. 『論語』入門―古いからこそ新しい思想―』(共著、河出書房新社、全二五四頁、二〇一五年一月)

3. 『道徳性形成・徳育論』(押谷由夫編、放送大学大学院教材、第三章・第四章「中国における道徳思想(徳育論)について考えてみよう(一)(二)担当。四六〇七頁、二〇一一年九月)

4. 『論語』(鑑賞中国の古典全二四巻の内の第二巻)「総説II」「本文鑑賞」巻六〇一〇、一六〇二〇、「参考文献」「孔子略年譜」(加地伸行・宇佐美一博氏との共著、角川書店、全五五八頁、一九八七年)

(五) 監修

1. 『懷徳堂文庫(雕龍古籍全文検索叢書シリーズ)』(監修、DVD二枚、凱希メディアサービス、二〇一七年一〇月)

2. 『日めくり菜根譚』(プレジデント社、全三一〇頁、二〇一七年一〇月)

3. 『えんぴつで老子・莊子』(大迫閑歩書、湯浅邦弘監修、ポプラ社、全一八二頁、二〇一七年八月)

4. 『えんぴつで菜根譚』(大迫閑歩書、湯浅邦弘監修、ポプラ社、全一五七頁、二〇一六年一二月)

5. 『孫子の戦略』(監修、別冊宝島二三七二、宝島社、全九五頁、二〇一五年八月)

6. 『菜根譚』叢書』(第一巻〜第一七巻) (監修、大空社、二〇一二年一〇月〜二〇一四年九月)

7. 『孫子』叢書』(第一巻〜第一四巻) (監修、大空社、二〇一三年六月〜二〇一四年二月)

8. 『完全図解これならわかる孫子の兵法』(監修、ナツメ社、全二三二頁、

二〇二一年七月)

二〇二一年二月)

【論文】

1. 「清華簡『五紀』に見える黄帝・蚩尤伝承—王権の由来と正当性—」(『中国研究集刊』重号(第六八号・電子版)、二五〇—四四頁、二〇二二年八月)
2. 「『詩経』形成史における安徽大学蔵戦国竹簡の意義」(『中国研究集刊』菜号(第六七号・電子版)、一〇—一七頁、二〇二二年八月)
3. 「西村天囚『欧米遊覧記』と御船綱手「欧山米水帖」—明治四十三年「世界一周会」の真実—」(『大阪大学文学研究科紀要』第六一巻、一〇—四一頁、二〇二二年三月)
4. 「小宇宙に込めた天囚の思い—種子島西村家所蔵西村天囚旧蔵印について—」(『懷徳堂研究』第一二号、三〇—三三頁、二〇二二年二月)
5. 「懷徳堂の復興と西村天囚—「世界一周会」の歴史的意義—」(『懷徳』第八九号、一四〇—一四七頁、二〇二二年一月)
6. 「On Stanzaic Inversion in the Qin feng 秦風 Ode's Sitie, 駟驥 (Iron-Black Horses) in the Anhui University Bamboo Manuscript of the Shi jing 詩経(Classic of Odes)」(『bamboo and silk』Volume 4 : Issue 1、一四九—一七一頁、二〇二二年一月)
7. 「孔子と読書—「韋編三絶」の真相—」(史跡足利学校研究紀要『学校』第一八号、三七—六九頁、二〇二二年三月)
8. 「西洋近代文明と向き合った漢学者—西村天囚の「世界一周会」参加—」(『大阪大学文学研究科紀要』第六〇巻、一〇—三七頁、二〇二二年三月)
9. 「鉄砲伝来紀功碑文の成立」(島根大学教育学部国文学会『国語教育論叢』第二七号(福田景道先生御退職記念号)、一三九—一五六頁、二〇二二年二月)
10. 「石濱純太郎・石濱恒夫と懷徳堂」(『東西学術研究と文化交渉—石濱純太郎没後五〇年記念国際シンポジウム論文集—』、二八五—二九六頁、二〇一九年一月)
11. 「日本の中国学与『四庫全書』」(『四庫学』第五輯、首都師範大学中国四庫学研究中心、陳曉華主編、四八—五四頁、社会科学文献出版社、二〇一九年五月。論文12の中国語版)
12. 「日本の中国学研究と四庫全書」(『懷徳堂研究』第一〇号、三〇—四〇頁、二〇一九年二月二八日)
13. 「西村天囚の知のネットワーク—種子島西村家所蔵資料を中心として—」(『懷徳』第八七号、一〇—二四頁、二〇一九年一月)
14. 「平成三〇年度(二〇一八)種子島西村天囚関係資料調査について」(『懷徳』第八七号、六〇—一〇頁、二〇一九年一月)
15. 「懷徳堂と近代日本の社会」(合山林太郎ほか編『文化装置としての日本漢文学』(アジア遊学二二九)、一七一—一八〇頁、勉誠出版、二〇一九年一月)
16. 「懷徳堂文庫所蔵「版木」のデジタルアーカイブ」(竹田健二編『懷徳堂研究第二集』、汲古書院、四三九—四四八頁、二〇一八年一月)
17. 「時令説的展開—北大漢簡『陰陽家言』與銀雀山漢簡『陰陽時令、占候之類』—」(『簡帛』第一七輯、一九五—二一四頁、二〇一八年一月。論文18の中国語版)
18. 「時令説的展開—北京大学竹簡『陰陽家言』、銀雀山漢墓竹簡『陰陽時令・占候之類』を中心として—」(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所『漢字学研究』第六号、一〇—二〇頁、二〇一八年一月)
19. 「北大簡『老子』的性質—結構、文章及詞彙—」(『古簡新知—西漢竹書『老

- 子』與道家思想研究』、北京大學出土文獻研究所編、一二八～一四九頁、上海古籍出版社、二〇一七年八月)
20. 「『異端』說—日本懷德堂學派之《論語》解釋—」(『儒家典籍與思想研究』第九輯、北京大學出版社、一七一～一八一頁、二〇一七年四月)
21. 「清華簡『殷高宗問於三壽』の思想的特質」(『中国研究集刊』光号(第六二号)、三二～五一頁、二〇一六年六月三〇日)
22. 「水戦」的思想—銀雀山漢墓竹簡《十陣》—(羅秉祥主編『先秦諸子與戰爭倫理』、中華書局、三四九～三七九頁、二〇一六年六月。論文25の中国語版)
23. 「懷德堂學派の『論語』解釈—「異端」の説をめぐって—」(『懷德堂研究』第七号、三～一七頁、二〇一六年二月)
24. 「主」と「客」—兵家と道家を中心として—」(『待兼山論叢』第四九号、一～一七頁、二〇一五年二月)
25. 「水戦の思想—銀雀山漢墓竹簡《十陣》—」(『中国研究集刊』称号(第六〇号)、七三～九一頁、二〇一五年六月)
26. 「觀光資源としての老莊故里」(二〇一四年国立高雄餐旅大学応用日本語系『「観光・言語・文学」国際学術研究会論文集』、一～六頁、二〇一四年一月)
27. 「上博楚簡『舉治王天下』的堯舜禹伝説」(武漢大学簡帛研究中心『簡帛』第九輯、一一三～一二七頁、上海古籍出版社、二〇一四年一月。論文33の中国語版)
28. 「中国の兵書」(アジア遊学一七三『日中韓の武将伝』、勉誠社、一二七～一三八頁、二〇一四年三月)
29. 「書簡と扇のデジタルアーカイブ—大阪大学懷德堂文庫の取り組み—」(『懷德堂研究』第五号、三～一一頁、二〇一四年二月)
30. 「銀雀山漢墓竹簡「論政論兵之類」考釋」(周鳳五主編『先秦文本及思想之形成・發展與轉化』、国立台湾大學出版中心、六七九～六八九頁、二〇一三年一月)
31. 「岳麓秦簡『占夢書』の思想史的位置」(『中国研究集刊』巨号(第五七号)、一〇〇～一二五頁、二〇一三年一月)
32. 「先秦兵学の展開—銀雀山漢墓竹簡『貳』を手がかりとして—」(第四回日中學者中国古代史論壇論文集『中国新出資料学の展開』、中国社会科学院歴史研究所・財団法人東方学会編、汲古書院、六七～七九頁、二〇一三年八月)
33. 「上博楚簡『舉治王天下』の古聖王傳承」(『中国研究集刊』號号(第五六号)、四三～六五頁、二〇一三年六月)
34. 「懷德堂デジタルアーカイブの展開」(『懷德堂研究』第四号、三～一三頁、二〇一三年二月)
35. 「上博楚簡『顔淵問於孔子』と儒家系文献形成史」(『中国研究集刊』劍号(第五五号)、四〇～五三頁、二〇一二年一月)
36. 「興軍之時—關於銀雀山漢墓竹簡《起師》—」(武漢大学簡帛研究中心『簡帛』第七輯、二一九～二三三頁、上海古籍出版社、二〇一二年一月。論文41の中国語版)
37. 「日本漢学与朱子学—江戸時代大阪「懷德堂」の學術—」(陳来主編『哲学与時代—朱子学国際学術研究会論文集』、四三八～四四三頁、華東師範大学出版社、二〇一二年九月)
38. 「幕末の漢文力」(『江戸の漢文脈文化』(中野三敏・楠元六男編、竹林舎、一二一～一四〇頁、二〇一二年四月)
39. 「朱子『家礼』と懷德堂『喪祭私説』」(吾妻重二・朴元在編『朱子家礼と東アジアの文化交渉』、汲古書院、三六七～三八二頁、二〇一二年三月)

40. 「漢代における『論語』の伝播」(『国語教育論叢』第二一号、一二九～一四三頁、二〇一二年三月)
41. 「興軍の時―銀雀山漢墓竹簡「起師」について―」(『大阪大学文学研究科紀要』第五二巻、一～三一頁、二〇一二年三月)
42. 「懷徳堂と白鹿洞書院」(『懷徳堂研究』第三号、一七～二五頁、二〇一二年二月)
43. 「幕末大坂の知的拠点―懷徳堂・適塾・泊園書院―」(吾妻重二編『泊園記念会創立五十周年記念論文集』、関西大学出版部、一一一～一四二頁、二〇一一年一〇月)
44. 「太姒の夢と文王の訓戒―清華簡「程寤」考―」(『中国研究集刊』岷号(第五三号)、一八三～一九八頁、二〇一一年六月)
45. 「銀雀山漢墓竹簡「論政論兵之類」について」(『中国研究集刊』第五二号(別冊特集号『中国出土文献研究2010』)、二三～四一頁、二〇一一年二月)
46. 「戒戒書としての『君人者何必安哉』」(浅野裕一編『竹簡が語る古代中国思想(三)―上博楚簡研究―』第五章、汲古書院・汲古選書、一八五～二〇二頁、二〇一〇年三月)
47. 「懷徳堂研究の可能性―韓国の書院と祖先祭祀儀礼から考える―」(『懷徳堂研究』第一号、三～一三頁、二〇一〇年二月)
48. 「清華大学竹簡と先秦思想史研究」(『中国研究集刊』麗号(第五〇号)、二八〇～二八八頁、二〇一〇年一月)
49. 「中井履軒『大学雜議』の思想的地位」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第四六巻、一～三八頁、二〇〇九年三月)
50. 「蘇る懷徳堂四書―「儒蔵」編纂事業について―」(『懷徳堂センター報二〇〇九』、三～七頁、二〇〇九年二月)
51. 「上博楚簡『平王問鄭壽』における諫言と予言」(浅野裕一編『竹簡が語る古代中国思想(二)―上博楚簡研究―』第六章、汲古書院・汲古選書、一四五～一六六頁、二〇〇八年九月)
52. 「中井履軒の印章」(『懷徳堂センター報二〇〇八』、一～一五頁、二〇〇八年二月)
53. 「太子の「知」―上博楚簡『平王與王子木』―」(『戦国楚簡研究二〇〇七』(『中国研究集刊』第四五号(別冊特集号『戦国楚簡研究2007』)、五七～六五頁、二〇〇七年十二月)
54. 「上博楚簡『莊王既成』の「予言」」(『戦国楚簡研究二〇〇七』(『中国研究集刊』別冊特集第四五号)、四四～五六頁、二〇〇七年十二月)
55. 「中国新出土文献における「死」の思想」(江川温編『死者の葬送と記念に関する比較文明史』、平成一六～一八年度科研報告書、基盤研究(A) 課題番号16202012、一四五～一五九頁、二〇〇七年六月)
56. 「同上・英文版(The Ideology of Death in Newly Excavated Documents in China)」
57. 「戦国楚簡と儒家思想―「君子」の意味―」(『中国研究集刊』為号(第四三号)、一～一七頁、二〇〇七年六月)
58. 「上博楚簡『三徳』的天人相關思想」(郭斉勇主編『儒家文化研究』第一輯(新出楚簡研究専号)、生活・読書・新知三聯書店、二六五～二八三頁、二〇〇七年六月。論文60の中国語版)
59. 「中井竹山の印章」(『懷徳堂センター報二〇〇七』、一～一五頁、二〇〇七年二月)
60. 「上博楚簡『三徳』の天人相關思想」(『戦国楚簡研究二〇〇六』(『中

- 国研究集刊』第四一号（別冊特集号『戦国楚簡研究2006』、一〇〇〜一一七頁、二〇〇六年二月）
61. 「上博楚簡『三德』の全体構造と文献的性格」（『中国研究集刊』第四一号（別冊特集号『戦国楚簡研究2006』、七六〜九九頁、二〇〇六年二月）
62. 「語り継がれる先王の故事—上博楚簡『昭王與龔之腓』の文献的性格—」（『中国研究集刊』露号（第四〇号）、三五〜四九頁、二〇〇六年六月）
63. 「父母の合葬—上博楚簡『昭王毀室』について—」（『東方宗教』第一〇七号、一〜一八頁、二〇〇六年五月）
64. 「懷徳堂の小宇宙—懷徳堂印の研究—」（『中国学の十字路口—加地伸行博士古稀記念論集』、研文出版、六八八〜七〇一頁、二〇〇六年四月）
65. 「懷徳堂の祭祀空間—中国古礼の受容と展開—」（『大阪大学大学院文学研究科紀要』第四六卷、一〜三六頁、二〇〇六年三月）
66. 「上博楚簡『彭祖』における「長生」の思想」（『中国研究集刊』致号（第三七号）、二〇〜三六頁、二〇〇五年六月）
67. 「ロシア軍艦ディアナ号と懷徳堂—並河寒泉の「攘夷」—」（島根大学教育学部国文学会『国語教育論叢』第一四号、一五一〜一六三頁、二〇〇五年三月）
68. 「奈良 大阪 墨の道—古梅園蔵懷徳堂墨型について—」（『懷徳』第七三号、六〜一四頁、二〇〇五年一月）
69. 「上博楚簡『従政』と儒家の「従政」」（『中国研究集刊』騰号（第三六号）、一一三〜一五三頁、二〇〇四年二月）
70. 「上博楚簡『従政』の竹簡連接と分節について」（『中国研究集刊』騰号（第三六号）、一一三〜一三二頁、二〇〇四年二月）
71. 「郭店楚簡『魯穆公問子思』釈文」（平成二二〜一五年科学研究費補助金基盤研究（B）（一）研究成果報告書『戦国楚系文字資料の研究』（研究代表者竹田健二）、課題番号12410004、二四三〜三四九頁、二〇〇四年三月）
72. 「戦国楚簡研究の現在」（戦国楚簡研究会共著、『中国研究集刊』第三三三号（別冊特集号『新出土資料と中国思想史』、一〜八一頁、二〇〇三年六月）
73. 「懷徳堂文庫デジタルコンテンツの展開—古典籍資料の電子情報化について—」（全国漢文教育学会『新しい漢字漢文教育』第三五号、六七〜七六頁、二〇〇二年二月）
74. 「郭店楚簡『六徳』について—全体構造と著意図—」（『中国出土資料研究』第六号、三九〜五三頁、二〇〇二年三月）
75. 「孔子の見た夢—懷徳堂学派の『論語』注釈—」（荒木浩編『心』と〈外部〉—表現・伝承・信仰と明恵『夢記』—」（大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究研究成果報告書、一三七〜一五八頁、二〇〇二年三月）
76. 「懷徳堂データベース全コンテンツ」（『大阪大学大学院文学研究科紀要』第四二卷、全三二〇頁、二〇〇二年三月）
77. 「懷徳堂データベースの構築—全体構造と今後の課題—」（『懷徳』第七〇号、三六〜四一頁、二〇〇二年三月）
78. 「「忠臣」の思想—郭店楚簡『魯穆公問子思』について—」（大久保隆郎教授退官記念論集『漢意とは何か』、四五〜六五頁、東方書店、二〇〇一年二月）
79. 「懷徳堂学派の『論語』注釈—泰伯篇曾子有疾章について—」（寺門日出男、神林裕子、石飛憲との共著、『中国研究集刊』歳号（第二九号）、

- 一〇三〜一三〇頁、二〇〇一年一二月)
80. 『虎鈴経』の兵学思想」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第四一巻、一〜二六頁、二〇〇一年三月)
81. 「中国古代兵学の「自然」」(里見軍之編『自然のなかの人間』、二三〜三三頁、二〇〇一年二月)
82. 『天楽楼書籍遺蔵目録』について—懷徳堂資料のデジタルアーカイブ化に向けて—」(寺門日出男、神林裕子、井上了との共著、『懷徳』第六九号、九一〜一〇七頁、二〇〇一年一月)
83. 「懷徳堂文庫所蔵『論孟五首章講義』について—デジタルコンテンツとしての位置づけ—」(杉山一也、竹田健二、藤居岳人、井上了との共著、『中国研究集刊』余号(第二七号)、四五〜六六頁、二〇〇一年一二月)
84. 『太白陰経』の兵学思想」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第四〇巻、一〜四〇頁、二〇〇〇年三月)
85. 『李衛公問对』の兵学思想」(『大阪大学文学部紀要』第三九巻、一〜四五頁、一九九九年三月)
86. 「中国軍事思想史研究の現状と課題」(『中国研究集刊』収号(第二三三号)、四五〜六五頁、一九九八年一二月)
87. 「中国古代の戦争と平和」(岩波書店・岩波講座『世界歴史』第二五巻、一五一〜一六八頁、一九九七年一二月)
88. 「出土資料と老荘思想研究」(加地伸行編『老荘思想を学ぶ人のために』第二部(五)、世界思想社、五五〜七四頁、一九九七年一月)
89. 「馬王堆帛書『十六経』の蚩尤像」(『東方宗教』第八九号、四〇〜五四頁、一九九七年五月)
90. 「類書と成語(四) —二つの「朝三暮四」—」(島根大学教育学部国文学会『国語教育論叢』第六号、一五五〜一七一頁、一九九七年三月)
91. 「類書の成立」(文部省科学研究費補助金総合研究A報告書『類書の総合的研究』、一四五〜一六二頁、一九九六年三月)
92. 「夢の書の行方—敦煌本『新集周公解梦書』の研究—」(『待兼山論叢』第二九号哲学篇、一〜一五頁、一九九五年)
93. 「秦帝国の吏観念—雲夢秦簡「語書」「為吏之道」の思想的意義—」(『日本中国学会報』第四七集、一〜一六頁、一九九五年一〇月)
94. 「類書と成語(三)—類書の変容と「出藍」の成立—」(『島根大学教育学部紀要』第二八巻、七一〜九五頁、一九九四年)
95. 「中国古代に於ける戦争論の展開—『呂氏春秋』『大戴礼記』の蚩尤観をめぐって—」(平成五年度文部省科学研究費補助金一般研究B研究成果報告書、一四一〜一六一頁、一九九四年、研究代表者：間瀬収芳、課題名：『史記』『漢書』の再検討と古代社会の地域的研究)
96. 「故事成語の研究—大学生の実態調査を踏まえて—」(『島根大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第四号、七九〜一一九頁、一九九四年)
97. 「類書と成語(二)—「沈魚落雁」の成立をめぐって—」(島根大学教育学部国文学会編『国語教育論叢』第四号、八二〜九四頁、一九九四年)
98. 「類書と成語—「杞憂」の成立をめぐって—」(『島根大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第三号、二三〜四七頁、一九九三年)
99. 「銀雀山漢墓竹簡『守法守令等十二篇』の思想的意義」(『中国研究集刊』辰号(第一三三号)、九一〜一一四頁、一九九三年)
100. 「軍神の変容—中国古代に於ける戦争論の展開と蚩尤像—」(『島根大学教育学部紀要』第二七巻、一〜二四頁、一九九三年)

- 101 「軍神の変容―中国古代に於ける戦争論の展開と蚩尤像―(一)」(『島根大学教育学部紀要』第二六卷、一一五―一三二頁、一九九二年)
- 102 「『呂氏春秋』の軍事思想―兵陰陽家著作説をめぐって―」(『呂氏春秋研究』第五号、一三―二二頁、一九九二年)
- 103 「『呂氏春秋』の義兵説―『墨子』『司馬法』との対比―」(『島根大学教育学部紀要』第二五卷、六一―七五頁、一九九一年)
- 104 「銀雀山漢墓竹簡古逸兵書の研究―『王兵』篇の考察―」(『古代文化』第四三卷第一二号、一三―二二頁、一九九一年)
- 105 「『司馬法』に於ける支配原理の峻別」(『島根大学教育学部紀要』第二四卷第二号、四五―六四頁、一九九〇年)
- 106 「孔子と夢と天命と―『論語』甚矣吾衰章解釈と儒家の夢観―」(『日本中国学会報』第四二集、一七―三一頁、一九九〇年)
- 107 「孔子の夢と朱子学の夢論」(『島根大学教育学部紀要』第二四卷第一号、一五―二九頁、一九九〇年)
- 108 「夢と人間―昭和六三年度島根国文学会公開研究授業(高校国語・漢文)をめぐって―」(島根大学教育学部附属複式教育研究センター編『教育研究紀要』第三号、一〇―一一〇頁、一九八九年)
- 109 「『称』の思想―馬王堆漢墓帛書『称』に於ける天道と統治原理―」(『島根大学教育学部紀要』第二三卷第二号、四五―六四頁、一九八九年)
- 110 「中国古代の夢と占夢」(『島根大学教育学部紀要』第二二卷第二号、七七―一〇五頁、一九八八年)
- 111 「中国古代の夢と占夢序論」(北海道教育大学語学文学会編『語学文学』三五―四四頁、一九八八年)
- 112 「馬王堆帛書『明君』の思想的意義」(『中国研究集刊』宙号(第六号)、一―一四頁、一九八八年)
- 113 「塩鉄論争に見る管子と董仲舒の思想」(『日本中国学会報』第三九集、五六―六九頁、一九八七年)
- 114 「国語ⅠⅡに於ける統合学習の構想―「胡蝶の夢」(『莊子』)を手がかりとして―」(『北海道教育大学紀要』第一部C、第三八卷第一号、一―一三頁、一九八七年)
- 115 「漢文教材の蘇生―その三つの視点―」(東京法令出版『月刊国語教育』一九八六年七月号、五二―五八頁、一九八六年)
- 116 「高等学校漢文教育の現状と課題―「塞翁馬」と道家思想教材をめぐって―」(島根大学国文学会編『島大国文』第一四号、三三―五二頁、一九八五年)
- 117 「故事成語の思想的背景―入門期教材と思想教材の関係―」(全国漢文教育学会編『新しい漢文教育』創刊号、七二―八二頁、一九八五年)
- 118 「『尉繚子』の富国強兵思想」(『東方学』第六九輯、三〇―四三頁、一九八四年)
- 119 「秦の法と法思想―雲夢秦簡を中心として―」(『日本中国学会報』第三六集、二五―三九頁、一九八四年)
- 120 「秦律の理念」(『中国研究集刊』天号(創刊第一号)、一―二二頁、一九八四年)
- 【研究史・書評・報告・概説等】
1. 「遺墨に見る前田豊山と西村天囚」(鹿児島県西之表市広報誌『市政の窓』二月号、一一頁、二〇二二年一月)
2. 「書写省力化の行方」(大東文化大学書道研究所報『桐墨』第一〇号、二―三頁、二〇一九年三月)
3. 「解説『孫子・呉子』」(町田三郎・尾崎秀樹『孫子・呉子』、中公文庫、

- 二六二～二六九頁、二〇一八年八月)
4. 「西村天因関係資料調査報告―種子島西村家訪問記―」(竹田健二・佐伯薫氏と共著、『懐徳』第八六号、七一～九一頁、二〇一八年一月)
 5. 「種子島に残る西村天因の記憶」(『東方』四四二号、二～七頁、二〇一七年十二月)
 6. 『貞観政要』の魅力に迫る」(中央経済社『税務弘報』二〇一七年二月号、一二～二五頁、二〇一七年十二月)
 7. 「学界展望・哲学」(編著、『日本中国学会報』第六九集、四二～五三頁、二〇一七年一〇月)
 8. 「報告 大阪大学総合学術博物館第二〇回企画展「重建懐徳堂開学一〇〇周年記念 KAITOKUDO大阪の誇り―懐徳堂の美と学問―」(『大阪大学総合学術博物館年報二〇一六』、二七～二九頁、二〇一七年八月)
 9. 「貞観政要―リーダー論の最高傑作―」(『碧い風』九〇号、二六～二七頁、二〇一七年七月一日)
 10. 「大学の誇りとは―重建懐徳堂開学百周年―」(『東方』第四二九号、二～七頁、二〇一六年十一月)
 11. 「学界展望・哲学」(編著、『日本中国学会報』第六八集、三一～四三頁、二〇一六年一〇月)
 12. 「北京学術調査報告」(中国出土文献研究会、『中国研究集刊』光号(第六二号)、一二七～一三三頁、二〇一六年六月)
 13. 「筆」の向こうに見える「人」(『大東書道』五五八号、巻頭言一頁、二〇一六年五月)
 14. 「新出土文献を通して読む『論語』」(芸術新聞社『墨』二〇一六年三月号、No.239、七二～七五頁、二〇一六年四月)
 15. 「大関兵」直後の北京」(自然総研『TOYORO BUSINESS』二〇一六年四月号、二〇一六年四月)
 16. 「空襲と懐徳堂」(懐徳堂記念会「記念会だより」平成二八年二月号、二〇一六年二月)
 17. 「清華簡(五) 所収文献解題」(中国出土文献研究会、『中国研究集刊』夜号(第六一号)、五八～九一頁、二〇一五年十二月)
 18. 「秦簡牘の全容に迫る―陳偉主編『秦簡牘合集』―」(草野友子氏と共著、『中国研究集刊』夜号(第六一号)、一〇〇～一〇八頁、二〇一五年十二月)
 19. 「懐徳堂から「大坂」を知る」(『阪大NOW』二〇一五年一〇月号、No.146、一二～一七頁、二〇一五年一〇月)
 20. 「人類の文化遺産「板木」―「国際木板保存研究協議会」参加記―」(『東方』四二二号、九～一四頁、二〇一五年六月)
 21. 「書評『宗教の世界史六 道教の歴史』(横手裕著)」(『中央公論』二〇一五年六月号、二〇～二二頁、二〇一五年五月)
 22. 「出土資料研究待望の書―『地下からの贈り物』―」(『東方』四〇五号、三二～三五頁、二〇一四年一〇月)
 23. 「よみがえる中国古代思想―竹簡学の誕生―」(科研費NEWS、二〇一四年VOL.1)
 24. 「『老子』研究の最前線―「簡帛《老子》」与道家思想国際学術研討会」参加記―」(『東方』三九五号、二～七頁、二〇一三年十二月)
 25. 「大坂の知 保存と公開実現」(産経新聞、二〇一三年九月一九日夕刊文化欄)
 26. 「紹介『中国文化史大事典』」(大修館書店『英語教育』二〇一三年七月号、九四頁)
 27. 「中国新出簡牘学術調査報告―上海・武漢・長沙―」(中国出土文献研

- 研究会、『中国研究集刊』劍号（第五五号）、一二九～一四九頁、二〇一二年二月）
28. 「しつらえから学ぶ儒教の精神、懷徳堂の空間」（産経新聞、二〇一二年一月三日夕刊文化欄）
29. 『墨子』解説」（ちくま学芸文庫『墨子』、筑摩書房、二九一～三〇二頁、二〇一二年一月一日）
30. 「中国昆明から発信するデジタルアーカイブ」（『東方』三七九号、二〇一二年九月）
31. 『論語』の魅力」（聖教新聞、二〇一二年七月二四日付文化欄）
32. 「古代中国の就活マニュアル」（産経新聞、二〇一二年五月一七日夕刊文化欄）
33. 「豊かな発想生む「自由」」（読売新聞、二〇一一年一月一日夕刊、「ガラパゴスの卵」第八話「教」に記事掲載）
34. 「よみがえる兵典―『孫子』解説―（および「名著のこぼれ」）」（中央公論新社・中公クラシックス『孫子』、一～二五頁、二〇一一年七月）
35. 「温故知新」のリーダー論」（春秋社『春秋』二〇一一年四月号、九～一一頁、二〇一一年三月）
36. 「亜使徒ニコライ列聖四十年記念講演会について」（『懷徳堂研究』第二号、九三～九四頁、二〇一一年二月）
37. 「懷徳堂展と資料修復」（『懷徳堂研究』第二号、三～一三頁、二〇一一年二月）
38. 「知徳の遺産 世紀を超えて―懷徳堂記念会創立百周年記念映像の制作―」（『懷徳』第七九号、五八～六一頁、二〇一一年一月）
39. 「谷文晁「帰馬放牛図」に描かれた花―懷徳堂展によせて―」（『大阪大学図書館報』第四四卷二号、三～四頁、二〇一〇年一月）
40. 「名言から読み解く懷徳堂精神、および懷徳堂特集の監修」（『月刊島民中之島』Vol.二七 一〇/一、二～八頁、二〇一〇年一月）
41. 「漢字」で記された古典の力 「温故知新」未来に光」（産経新聞、二〇一〇年七月二四日夕刊文化欄）
42. 「よみがえる懷徳堂資料」（『大阪大学図書館報』第四三卷一号、一～二頁、二〇〇九年一月一日）
43. 「大阪大学附属図書館と懷徳堂文庫」（『大阪大学の歴史』第四章コラム、四五～四七頁、大阪大学出版会、二〇〇九年三月）
44. 「懷徳堂から大阪大学文学部へ」（『大阪大学の歴史』第四章、三六～四四頁、大阪大学出版会、二〇〇九年三月）
45. 「書院としての懷徳堂」（『東アジア文化交渉学』別冊二「東アジアにおける書院研究」、関西大学文化交渉学教育研究拠点CIS、一〇五～一九九頁、二〇〇八年六月）
46. 「よみがえる春秋の歴史」（『史記』三下（十表二）季報一〇六、明治書院、一～二頁、二〇〇八年六月）
47. 「テキストの変容と故事成語の誕生」（飯倉洋一編『テキストの生成と変容』、二〇〇五―二〇〇七年度大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究成果報告書、五五～五九頁、二〇〇八年三月）
48. 「第四回懷徳堂法人講座報告―温故知新―」（『懷徳』第七六号、七一～七二頁、二〇〇八年一月）
49. 「森の中の懷徳堂―大阪大学総合学術博物館待兼山修学館の開館によせて―」（『懷徳』第七六号、四六～四八頁、二〇〇八年一月）
50. 「中国西安・上海学術調査報告」（戦国楚簡研究会共著、『中国研究集刊』第四五号（別冊特集号『戦国楚簡研究2007』、一四四～一六七頁、二〇〇七年一月）

51. 「読み直す中国古代思想」(中央公論新社・中公クラシックス・コメンタリテイ『諸子百家争鳴』、二八三〜二九五頁、二〇〇七年一月)
52. 「漢籍善本紹介―大阪大学懐徳堂文庫(四)―」(『新しい漢字漢文教育』第四五号、口絵五〜八頁、および一〇二〜一〇三頁、二〇〇七年一月)
53. 「漢籍善本紹介―大阪大学懐徳堂文庫(三)―」(『新しい漢字漢文教育』第四四号、口絵五〜八頁、および八六〜八七頁、二〇〇七年六月二〇日)
54. 「書評『近世阿波漢学史の研究 古学者高橋赤水』(有馬卓也著)」(『徳島新聞』二〇〇七年六月一九日文化欄)
55. 「懐徳堂文庫貴重資料の修復について」(『懐徳堂センター報』二〇〇七年一月九〜一二七頁、二〇〇七年二月)
56. 「第三回懐徳堂法人講座報告―大阪学問所の挑戦―」(『懐徳』第七五号、一〇四〜一〇五頁、二〇〇七年一月)
57. 「日本道教学会第五七回大会報告」(『中国研究集刊』結号(第四二号)、一〜一八頁、二〇〇六年十二月)
58. 「湖南省長沙学術調査報告」(戦国楚簡研究会共著、『中国研究集刊』第四一号(別冊特集号『戦国楚簡研究2006』、二三九〜二六八頁、二〇〇六年十二月)
59. 「『新出楚簡國際学術研討會』参加記」(戦国楚簡研究会共著、『中国研究集刊』第四一号(別冊特集号『戦国楚簡研究2006』、二〇〇〜二三八頁、二〇〇六年十二月)
60. 「大阪ブランド／懐徳堂精神を現代に生かせ」(読売新聞、二〇〇六年十一月一六日朝刊)
61. 「漢籍善本紹介―大阪大学懐徳堂文庫(二)―」(『新しい漢字漢文教育』第四三号、口絵五〜八頁、および八六〜八七頁、二〇〇六年一月)
62. 「戦国楚簡と中国古代思想史研究」(『中国史学』第一六卷「思想文化史特集」、一三三〜一四二頁、二〇〇六年一月)
63. 「漢籍善本紹介―大阪大学懐徳堂文庫(一)―」(『新しい漢字漢文教育』第四二号、口絵五〜八頁、および一〇五〜一〇七頁、二〇〇六年五月)
64. 「大阪文化の力―池田文庫と懐徳堂文庫―」(『館報池田文庫』第二八号、五〜六頁、二〇〇六年四月)
65. 「新出土文献と孟子の思想(「名著のことば」)(中央公論新社・中公クラシックス『孟子』、一〜二五頁、二〇〇六年四月)
66. 「よみがえる重建懐徳堂―復元模型の制作について―」(『懐徳堂センター報』二〇〇六年二月、五〜一四頁、二〇〇六年二月)
67. 「懐徳堂文庫へのいざない」(『大阪大学図書館報』三九卷三号、三〜四頁、二〇〇六年一月)
68. 「中国湖北省荊門・荊州学術調査報告」(戦国楚簡研究会共著、『中国研究集刊』第三八号(別冊特集号『戦国楚簡研究2005』、四四〜六四頁、二〇〇五年十二月)
69. 「『上博楚簡』解題―『上海博物館藏戦国楚竹書』(三)(四)所収文献―」(戦国楚簡研究会共著、『中国研究集刊』第三八号(別冊特集号『戦国楚簡研究2005』、一〜四三頁、二〇〇五年十二月)
70. 「文化庁アーカイブ事業の概要―成果と課題―」(平成一六年度(二〇〇四)文化庁委託全国の博物館・美術館等における収蔵作品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究事業『調査研究報告書』、二〜六頁、大阪大学大学院文学研究科懐徳堂センター、二〇〇五年六月)

71. 「体験懷徳堂CD-ROMの制作と懷徳堂モニターの取り組み」(『懷徳堂センター報二〇〇五』、一〜六頁、二〇〇五年二月)
72. 「よみがえる懷徳堂」(聖教新聞、二〇〇五年一月六日文化欄)
73. 「出土竹簡の語る世界―特集号「戦国楚簡と中国思想史研究」の刊行―」(『中国研究集刊』騰号(第三六号)、一〜二頁、二〇〇四年十二月)
74. 「戦国楚簡研究関係HP紹介」(『中国研究集刊』騰号(第三六号)、九四〜一〇四頁、二〇〇四年十二月)
75. 「人文学における共同研究と情報発信」(『日本中国学会便り』二〇〇四年第一号、四〜五頁、二〇〇四年四月二〇日)
76. 「懷徳堂文庫貴重資料解題」(平成一三〜一五年科学研究費補助金基金研究(A)(二)研究成果報告書「デジタルコンテンツとしての懷徳堂研究」(研究代表者下條真司)、課題番号13309011、一〇〜八七頁、二〇〇四年三月)
77. 「WEB懷徳堂」主要コンテンツ紹介」(平成一三〜一五年科学研究費補助金基金研究(A)(二)研究成果報告書「デジタルコンテンツとしての懷徳堂研究」(研究代表者下條真司)、課題番号13309011、七〜九頁、二〇〇四年三月)
78. 「懷徳堂アーカイブから大阪大学アーカイブへ」(『大阪大学図書館報』三七卷四号、四〜六頁、二〇〇四年三月)
79. 「展示室を飛び出した「懷徳堂」―大阪大学懷徳堂センターの活動―」(『懷徳堂センター報』二〇〇四、三三〜四八頁、二〇〇四年二月)
80. 「懷徳堂に見るアーカイブの展開」(『Network』二九号、全国歴史資料保存利用機関協議会近畿部会会報、六〜七頁、二〇〇四年二月)
81. 「電子懷徳堂考の制作」(『懷徳』第七二号、八八〜九〇頁、二〇〇四年一月)
82. 「総合学術博物館設立記念展レポート(懷徳堂関係)」(『大阪大学総合学術博物館年報二〇〇二』八一〜八四頁、二〇〇三年十二月)
83. 「千字文」周行の道―『中国研究集刊』の蘆北賞受賞について―」(『中国研究集刊』陽号(第三四号)、一三九〜一四五頁、二〇〇三年十二月)
84. 「インターネットで学ぶ懷徳堂」(『懷徳』第七二号、九四〜九六頁、二〇〇三年一月)
85. 「二人の孫子―中国兵法の誕生―」(『中国人物列伝』、恒星出版、七一〜九二頁、二〇〇二年一〇月)
86. 「孝」が道德の根源とされるのはなぜか」(大修館書店『しにか』二〇〇二年五月号、二四〜二八頁、二〇〇二年五月)
87. 「懷徳堂文庫の総合移転」(『大阪大学図書館報』一四〇号、六〜八頁、二〇〇一年九月)
88. 「韓非子 世界制覇のための方策」(『世界の文学』一〇二号、朝日新聞社、五八〜五九頁、二〇〇一年六月)
89. 「懷徳堂と電子図書館」(『大阪大学図書館報』一三六号、一〜四頁、二〇〇〇年六月)
90. 「甦る兵家の活動」(大修館書店『しにか』二〇〇〇年九月号、二一〜二七頁、二〇〇〇年八月)
91. 「焚書坑儒とは何か」(大修館書店『しにか』二〇〇〇年二月号、四〇〜四五頁、二〇〇〇年一月)
92. 「書評 工藤元男著『睡虎地秦簡よりみた秦代の国家と社会』」(『中国出土資料研究』第三号、九五〜一〇二頁、一九九九年三月)
93. 「兵家の思想と活動」(大修館書店『しにか』一九九九年二月号、二一〜二六頁、一九九九年一月)
94. 「潜夫の夢」(橋本高勝編『中国思想の流れ』、晃洋書房、七〇〜七五年一月)

- 頁、一九九六年五月)
- 95 「書評『夢の迷信与夢の探索』(劉文英著、中国・社会科学出版社、三五九頁、一九八九年)」「(東方書店『東方』第一一七号、二八〇頁、一九九〇年)
- 96 「易占い」(加地伸行編『易の世界』、一八九〇二頁、新人物往来社、一九八六年)
- 97 「漢代思想(儒教国教化と『塩鉄論』)研究史」(『中国研究集刊』地号(第二号)、三五〇三八頁、一九八四年)
- 98 「雲夢秦簡研究資料目録」(『中国研究集刊』天号(創刊第一号)、二二〇三七頁、一九八四年)
- 99 「孫子の戦争論」(加地伸行編『孫子の世界』、一五〇〇一六五頁、新人物往来社、一九八四年)
- 100 「諸葛孔明の戦争論」(加地伸行編『諸葛孔明の世界』、九一〇一〇六頁、新人物往来社、一九八三年)



北京大学にて竹簡の実見調査(2015年9月)



懐徳堂研究会(2017年3月、大阪大学にて。後列中央)

前列左から、竹田健二、矢羽野隆男、寺門日出男、湯城吉信、佐野大介、黒田秀教。

後列左から、池田光子、中村未来、清水洋子、花島雅弘、前川正名、湯浅邦弘、

久米裕子、藤居岳人、佐藤由隆、杉山一也、草野友子。(敬称略)